

# 健やか親子21推進協議会

## 第1課題

### 第1課題幹事団体

日本児童青年精神医学会(代表幹事)

全国養護教諭連絡協議会

(社団)日本家族計画協会

日本思春期学会

日本助産学会

(社団)日本泌尿器科学会

番号	課題1 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
1	十代の自殺の予防
2	十代の人工妊娠中絶の予防
3	十代の性感染症罹患の予防
4	15歳の女性の思春期やせ症(神経性食欲不振症)の発生予防と治療の促進
5	児童・生徒における肥満の予防
6	薬物乱用の有害性について若者への知識の普及・啓発
7	十代の喫煙の防止
8	十代の飲酒の防止
9	避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発
10	性感染症に対する若者の知識の普及・啓発
11	学校保健委員会の開催の推進と活性化
12	外部機関と連携した薬物乱用防止教育等の推進
13	スクール・カウンセラーの配置と相談機能の強化
14	思春期外来(精神保健福祉センターの窓口を含む)・病棟等の整備
15	地方公共団体や学校等と連携した思春期保健対策の推進
16	地方公共団体やNPO、関係機関等と連携した食育の推進
68	子どもの朝食摂取に対する取組の推進(平成22年4月から)

## 第1課題幹事会活動

第1回;5/14(金) 前年度会計報告、平成22年度予定策定

第2回;7/21日(水)「助産師による思春期の健診・相談活動」

慈恵医大看護学科 茅島江子

第3回;9月22日(水)「児童精神科領域における睡眠問題について」

独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院  
岩垂喜貴

第4回;11月24日(水)「WEBを活用した園児総合支援システムの構築と活用」

筑波大拓大学院人間総合科学研究科  
渡辺多恵子

第5回;1月26日(水)「今、求められる性感染症予防教育」

東邦大学医学部看護学科家族生殖看護学研究室 齋藤益子

## 助産師による思春期の健診・相談活動 —スウェーデンのユースクリニックの紹介—

- ユースクリニックとは、思春期の若者(主に15歳～20歳前後)を対象に無料でサービスを提供する公的な施設
- 若者が性に関する知識を得ることができ、具体的な対処法やアドバイスを入手できる。

健やか親子212010.7.21茅島江子

## 児童精神科受診児童における睡眠評価 発達障害児を中心として

独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院

児童精神科 岩垂 喜貴



第5回健やか親子幹事会

子どもたちを性感染症から守るために  
**今、求められる性感染症予防  
教育**

東邦大学医学部看護学科  
齋藤 益子

平成23. 1. 26(水)  
慈恵医科大学

### 今後の計画

- 今年度は幹事団体の担当者による4演題の講演を幹事会で行い相互理解を図った。
- 次年度以降、前記の第1課題に含まれる諸課題に関連ある演題の講演とその後の議論を内容とする、市民啓発を目的とした研修会ないしシンポジウムを企画し、年1回を目途として開催したい。
- その際、最大の課題は開催場所の選定と開催費用の調達であり、次年度はまず開催可能性について検討することから始めたい。

平成23年2月16日

## 健やか親子21推進協議会 課題2 全体会

第2課題幹事会団体：日本産科婦人科学会，日本産婦人科医会，日本母乳の会，  
日本周産期・新生児医学会，日本助産師会

報告者：岡本喜代子 （社）日本助産師会専務理事

## はじめに

我が国の母子保健は、世界最高水準にあるが、思春期問題、子ども虐待等の親子の心の問題、小児救急医療等の課題も生じ、4つの課題、すなわち①妊娠・出産の安全性の確保、②妊娠・出産の快適性の確保、③母乳哺育の推進、④不妊への支援が明確化された。これらの4つの課題を解決していくために、平成13年度から22年度までの10年計画で「健やか親子21」の国民運動が開始された。早その期間は経過したが、本課題は継続して取り組む必要があり、平成26年度まで4年間延長された。日本産科婦人科学会，日本産婦人科医会，日本母乳の会，日本助産師会が課題2の幹事会として、年2～3回会議を開催してきた。

平成22年度より、さらに内容の充実のために、日本周産期・新生児医学会が幹事会に参加することになった。

幹事会の世話人は、平成13年7月～平成22年11月までの長きにわたり、日本母乳の会が担当し、平成22年11月から日本助産師会が世話人となった。

平成13年度から平成22年11月までの9年間に、課題2の幹事会を30回開催した。主に論じてきたテーマは、①妊娠・出産の安全性の確保、②妊娠・出産の快適性の確保、③母乳哺育の推進、④不妊への支援の4課題であった。

この間、厚生労働科学研究として、平成16年から18年までは、「妊娠・出産の快適性確保のための諸問題の研究」（主任研究者：橋本武夫）を実施した。また、平成20年度は、子ども未来財団の児童関連サービス調査研究の助成を受け、厚生労働省の『授乳・離乳の支援ガイド』公表後の「妊娠・出産の快適性確保に関する調査研究」（主任研究者：吉永宗義）として、「母乳育児支援の評価」に関する研究を4幹事団体で実施した。平成21・22年度は、研究としての取り組みは実施していない。

今回は、平成21・22年度の2年間に、課題2の幹事会で論議された事項を中心に、報告する。この間3回の幹事会が開催された。その概要は、表1のとおりである。

また、この2年間は、昨今の産科医療を取り巻く、厳しい出産環境の激変から、最優先は、①妊娠・出産の安全性の確保が重要課題であり、新生児蘇生法の研修の普及等への取り組み状況が各団体から報告され、審議された。

したがって、この2年間は、妊娠・出産の安全性の確保の課題を最優先した。

# 1. 平成 21・22 年度「健やか親子 21」推進協議会・課題 2 幹事会開催状況

平成 21・22 年度の幹事会の開催状況は表 1 のとおりである。

表 1 課題 2 幹事会 開催状況

回	日時	議事内容	場所
第 28 回	平成 22 年 1 月 21 日 (木) 18:00~20:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○厚生労働省挨拶</li> <li>○今年度各団体活動報告</li> <li>○健やか親子 21 の検討会・厚労省研究班のメンバーの日本産婦人科医会、日本助産師会から</li> <li>○今後の幹事会の会議について</li> <li>○3 月 1 日の総会の報告について</li> <li>○来年度の方向性</li> </ul>	日本助産師会 会議室
第 29 回	平成 22 年 6 月 4 日 (木) 18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新幹事団体紹介・挨拶、厚労省挨拶</li> <li>○今年度活動について (各団体から)</li> <li>○今後の幹事会の会議について <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 年間で目標とすること</li> <li>・実施したい研究課題 (早期皮膚接触の実態調査)</li> <li>・新しい世話人の選出 (日本助産師会)</li> </ul> </li> <li>○厚労省より <ul style="list-style-type: none"> <li>・合同幹事会の開催について (年度内 1 回くらい)</li> <li>・協議会の表彰について</li> </ul> </li> </ul>	日本助産師会 会議室
第 30 回	平成 22 年 11 月 11 日 (木) 18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題 2 で取り組む課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的課題：新生児に関する事項</li> <li>・女性の健康キャンペーン</li> <li>・短期的課題：NCPR の推進</li> </ul> </li> <li>○課題 2 の全体会について：2 月 16 日 (水) に開催</li> <li>○中間評価で 1 か月の母乳率を 60%にすると指標が出ているのでそのための方策</li> <li>○他の課題との合同会議について <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題 1 との交流について (11 月 24 日の平成 22 年度第 4 回幹事会に参加)</li> </ul> </li> </ul>	日本助産師会 会議室

## 2. 課題2で平成21・22年度に論議し、各団体で取り組んだ事項

### 1) NCPRの普及

新生児救急で重要なNCPR（新生児蘇生法）を分娩を取り扱う医療者に修得してもらう必要がある。特に、診療所の産婦人科医師、開業助産師等の助産師への普及が急務である。そこで、職能団体の日本産婦人科医会、日本助産師会は、重要課題として取り組んでいる。

日本産婦人科医会では、日本周産期・新生児医学会の協力を得て、平成20年度より平成21・22年度とインストラクター育成に主眼を置き、約500名のインストラクターが養成され、そのインストラクターが各県の医師に指導し、普及に努めている。

日本助産師会では、新生児蘇生法を含む救急対応強化のための研修会を平成15年度より年1回、定員30名で開始した。NCPRの認定が開始した平成19年度より2回、平成21年度より3回と回数を増加し、約250名が研修を修了し、約150名がBコースを修了している。また、各県支部においても、開催しているため、約400名が新生児蘇生法の研修を修了している。今後とも、その充実に努めたいと考えている。

助産師の基礎教育においても、NCPRの認定制度が導入されるよう全国助産師教育協議会等に働きかけることの重要性が論議された。

その施設のNCPR認定者の割合が病院機能評価の指標になってもいいのではという意見もあった。

### 2) 産科医療補償制度について

平成21年度より本制度が開始され、それに伴い加入率の増加に向けて意見交換を行った。原因分析の開始に伴い、助産録等記録（分娩監視装置のモニターの記録も含む）の重要性について啓発し、各団体で取り組むこととした。

### 3) 出産・育児一時金直接払い制度についての取組

平成22年度から開始した出産・育児一時金直接払い制度について、その制度のより円滑な運営のためにその支援に努めたが、診療所・助産所の一部から約2ヵ月遅れの入金の問題が起り、平成23年度から立て替え払い制度との併用が可能になるようになった。

### 4) HTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス-1)の母子感染対策について

平成23年度の国の母子保健対策関係予算にも、計上されているHTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス-1)の母子感染対策として、検査の推奨および保健指導体制の充実の重要性について確認し、関連の関係団体において努力することになった。

### 5) 母乳育児・産後の母子

#### の心のケアの重要性について

産後うつ、子ども虐待問題等産後の母親の精神的な支援の重要性について話し合った。特に、健全な母子関係の構築上、母乳育児推進、出産直後のカンガルーケアの重要性が論議され、カン

ガルーケアについては、分娩室の安全性の観点からもカンガルーケアの安全性の問題も包含した上で、取り組む必要がある。今後、早期皮膚接触の実態調査も課題である。

また、母乳育児推進のためには、①「授乳・離乳の支援ガイド」の出産施設における3つの項目、早期授乳、母子同室、赤ちゃんのサインにあわせた授乳を浸透させる。

②BFH施設および母乳育児を成功させるための10カ条を遵守する施設の増加が重要であるという意見があった。

さらに、現在実施されている妊婦健診の公費負担だけでなく、褥婦への支援のための公費負担も必要である。今後、要望していく必要があるという意見があった。

## 6) 今後の課題

### (1) 短期的課題

分娩時の安全性強化のために、分娩を扱う全医療者へのNCPRの普及が必要である。

### (2) 長期的課題

子どもの心身の健全な育成のために、新生児の取扱いや子育てをどう考えていくのか、長期的で広範囲の視点からそのビジョンを考えていく必要がある。我が国においても、子ども虐待等予防への対応に力を注ぎ、そのための、長期間フォローしているアメリカのACofAのコホート調査のような国家的規模の調査も必要になってきているのではないかと。

## 7) 他の課題との連携・交流

今後の課題の解決のためには、課題2に対する取組だけで解決するものではなく、他の課題との連携・交流が重要である。他の課題の幹事会にも、可能な限り参加することになった。

## 8) その他

産科医師、小児科医師、助産師共マンパワー不足であり、増員の努力と産科領域では、産科医師と助産師の役割分担、協働の推進や周産期医療ネットワークの推進も重要課題であり、それぞれの領域で、長期的に取り組む必要がある。



# 健やか親子21【課題3】 ～平成22年度活動報告～

平成23年2月25日(金)  
健やか親子21推進協議会  
課題3幹事団体

## 1. 健やか親子21推進協議会 課題3のテーマ

小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備  
(小児や周産期、妊娠期に関する22の項目あり)

## 2. 課題3の参加団体(幹事団体は8団体)

- ・(NPO)難病のこども支援全国ネットワーク
- ・(社)日本看護協会
- ・(社)日本小児科医会
- ・(社)日本小児科学会
- ・日本小児看護学会
- ・(財)母子衛生研究会
- ・日本小児総合医療施設協議会
- ・全国保健所長会

(順不同)

### 3.平成22年度の活動

#### 今年度の活動方針

- ・各団体との情報交換  
(健やか親子21に関連する取り組みの情報共有)
- ・拡大会議の開催  
(第2回目の幹事会を拡大会議として位置づけ、各団体との情報交換の中から、具体的な取り組みの報告を行う)



- ◆幹事会 2回開催(H22年6月、H23年3月(予定))  
各団体との情報交換等
- ◆**健やか親子21 課題3拡大会議(H22年12月16日)**  
～子どもを取り巻く環境は、今～



#### 平成22年度健やか親子21課題3拡大会議 ～子どもを取り巻く環境は、今～

##### ①目的

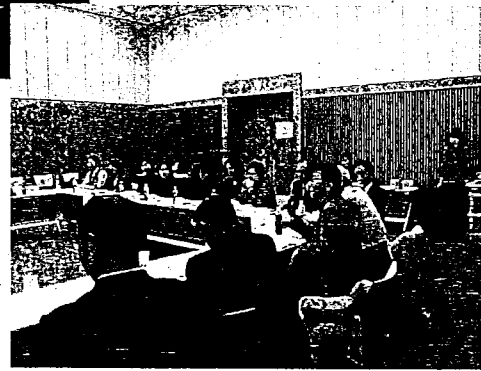
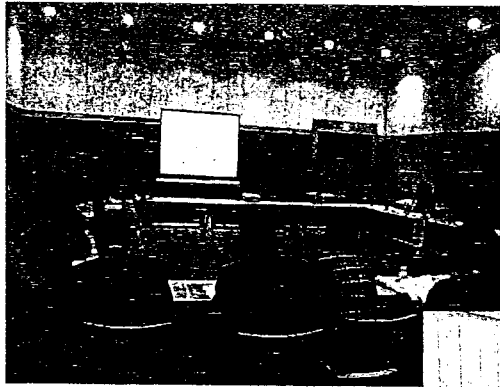
お産や子育て支援の体制整備や子どもの虐待、思春期の健康問題に対応するため、多くの機関・団体が協力し、様々な運動に取り組んでいる。そこで、「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」を取り組みテーマとする「健やか親子21推進協議会 課題3幹事団体」では、本運動の推進に向けて、情報交換や課題の共有を行うための拡大会議を開催した。

②日時:平成22年12月16日(木)15:30～17:30 JNAホール

③参加者:参加者数34名

幹事団体のほかに、持田ヘルスケア株式会社、日本母乳の会、  
日本助産師会、カネソン本舗柳瀬ワイチ株式会社、  
週刊保健衛生ニュースなどから参加あり

(順不同)



【12/16】  
拡大会議の様子

#### ④プログラム

- 1)開会のあいさつ 日本看護協会 井伊久美子
- 2)ご挨拶  
厚生労働省雇用均等・児童家庭局 母子保健課 課長泉陽子
- 3)話題提供①「子どもの権利条約について」  
日本小児総合医療施設協議会 城宏輔
- 4)話題提供②「妊娠・出産・子育てに関するWebアンケートについて」  
(財)母子衛生研究会 神谷克也  
持田ヘルスケア株式会社 圓山美保子
- 5)話題提供③「小児救急医療電話相談事業(#8000)について」  
(社)日本看護協会 白石裕子
- 6)話題提供④「傷害注意速報(injury alert)について」  
(社)日本小児科学会 関口進一郎
- 7)意見交換・フリーディスカッション

④内容 話題提供の中や意見交換での、主な意見は以下の通り。

- ・「子供の権利条約」に、小児医療からだけでなく、生まれた時からという概念を入れていただきたい。
- ・胎児・新生児には人権がない。子供の権利を考えると、医療の対象となり人間として扱われるときから、人権について考える必要があるのでは。
- ・Webアンケートの結果は、報告書としてまとめ、今後、マスメディアに対しリリースとして出していく予定。
- ・#8000については、「母親をどのように育てていくか」に取り組まなくては、需要は増す一方。また、開設時間が短いことも問題では。
- ・乳幼児に危険な玩具について、具体的に予防対策などが動くようになったのは、ここ数年の出来事。
- ・小児科医の不足について、具体的な対策が進んでいるのだろうか。→転入してきた方や、初産の方のかかりつけ小児科医というものはなかなか定着しない。そのためシステムを作成したが、なかなか機能していない状況。
- ・慢性疾患の在宅医療の支援体制の整備に対して活動しており、特別支援看護学校の看護師のためのガイドラインを作成した。

## 課題4「子どもの心の安らかな 発達の促進と育児不安の軽減」

幹事団体代表 衛藤 隆(日本小児保健協会・会長)

代理発表 原 光彦(同 学校保健委員会委員)

2011/2/25

第10回健やか親子21推進協議会総会

## 第4課題「子どもの心の安らかな発達の 促進と育児不安の軽減」幹事団体

- 児童虐待防止協会
- 全国児童相談所長会
- 全国保健センター連合会
- 全国保健師長会
- 日本小児保健協会

(順不同)

2011/2/25

第10回健やか親子21推進協議会総会

## 課題の三本柱

- ①心の安らかな発達
- ②育児不安の軽減
- ③虐待防止

2011/2/25

第10回健やか親子21推進協議会総会

### 1. 心の安らかな発達

- 子どもの心の安らかな発達を促し、その環境形成を支援するための活動
  - － 参加団体による日常的な様々な取り組み
    - ・ 調査研究、親子のふれあい、家庭訪問他
  - － 一般向け活動：広報、出版、知識の普及、グループワーク、相談・個別支援等
  - － 組織内研修
  - － 職種毎の研修

2011/2/25

第10回健やか親子21推進協議会総会

## 2. 育児不安の軽減～親支援

- 出産後の母親への支援
  - 助産師による産後サポート
  - 母乳哺育の支援：母親に自信を持たせる、母親の力を引き出すような支援、1ヵ月母乳率の向上
- 保育カウンセラー
  - 幼稚園その他の場所で保護者からの子育て相談に応じたり、あるいは保育者とミーティングを開いて保育上の悩みを検討
- 育児不安・ストレス
  - 「なくす」→「受け止め、周囲が支援する」

2011/2/25

第10回健やか親子21推進協議会総会

## 3. 虐待防止

- 被虐待児対策と予防活動
  - 調査研究、研修会、マニュアル作成・改訂、周産期・新生児施設での退院後未受診者対策、他
- 早期発見・早期対応
  - 親権者不同意の一時保護調査(虐待の反復が問題)
  - 子ども家庭支援センターの役割
  - 要保護連絡協議会：要支援のケース、ネットワーク
  - 歯・口の状態は虐待の発見の糸口

2011/2/25

第10回健やか親子21推進協議会総会

## 健やか親子21推進協議会 第4課題の経験から

- 情報共有と討論の積み重ね
  - 年1回ではあるが、交流の機会は貴重
- 様々な母子保健・福祉・医療の現場での虐待防止への気づきを推進し、研修等を通じ力をつける。
- 「リスクの段階からの介入」、「育児する親の自信、自尊心」が話題となった。
- 各機関の連携を推進することが引き続き大切。

2011/2/25

第10回健やか親子21推進協議会総会